

【学会見聞録】

第1回日本基礎老化学会市民フォーラム

小林 正樹

東京理科大学 薬学部

生命創薬科学科 分子病理・代謝学研究室

2020年11月7日(土)から8日(日)にかけて、松本市信毎メディアガーデンにて、第1回日本基礎老化学会市民フォーラムが開催されました。松本市は国宝である松本城をはじめ、昨年に同じく国宝に指定された旧開智学校校舎など歴史的建造物を数多く残す信州を代表する観光都市である一方で、「健康寿命延伸都市・松本」をスローガンに、市民の健康水準を高める政策に積極的に取り組んでいます。それゆえ、同じく「健康な長寿社会の実現」を目指す日本基礎老化学会の市民フォーラムが今回松本で開かれたことは、非常に意義深いと感じました。

記念すべき第1回目となる今回の市民フォーラムでは、日本基礎老化学会理事長である国立長寿医療研究センターの丸山光生先生が世話人代表を務められました。「老化の基礎研究が導く健康長寿社会」をテーマに、学会内外および地元の大学や教育機関の研究者、さらには地元行政に携わる方々が講演しました。また共同研究を推進しておられる企業による展示等も行われていました。1日目には老化の基礎研究についての内容が、2日目には健康長寿に関するより実践的な内容が発表されました。本稿では主に1日目の講演内容について振り返りたいと思います。

1日目は「基礎老化研究と展望」、「基礎老化研究の紹介Ⅰ」、「基礎老化研究の紹介Ⅱ」の3つのセッションが順に行われました。「基礎老化研究と展望」では、長崎



大学の下川功先生、京都光華女子大学の細川昌則先生、椋山女学園大学の本山昇先生の3名の先生方が、カロリー制限研究、SAM マウス、細胞老化と個体老化、それぞれの歴史と展望についてご発表しました。いずれも現在の基礎老化研究の根幹を成すテーマであり、これらに長年携わってこられた先生方からのご講演はとても勉強になるものでした。中でも、細川先生がご講演の中で触れられた「老化の定義」や「早老と老化促進の違い」というような老化研究における本質的な事柄については、恥ずかしながら筆者自身はこれまで深く考えたことがなく、老化現象というものの捉え方を改めて認識する機会となりました。

「基礎老化研究の紹介Ⅰ」では、千葉大学の殿城亜矢子先生、山口東京理科大学の嶋本顕先生、大阪大学の中村修平先生、富山大学の中川崇先生が、各先生方の研究内容について最近の研究結果を踏まえてご発表しました。加齢性記憶障害や早老症の解析からオートファジーと加齢の関連、さらには老化関連疾患の予防法として注目されているNAD 補充療法の現状に至るまで、非常に多岐にわたる発表内容となっていました。「基礎老化研究の紹介Ⅱ」では、国立長寿医療研究センターの津田玲生先生、東京都健康長寿医療センターの萬谷博先生、東京理科大学の樋上賀一先生が、ご自身の研究についてご発表しました。加齢に伴う神経機能低下における体内アミノ酸プールの変化や肺の老化における細胞外基質の糖鎖制御の重要性、カロリー制限メカニズムとしての白色脂肪組織におけるミトコンドリア機能改善といった、前半とは異なる切り口の内容でした。

正直なところ、今回は市民フォーラムということで一般向けの広く浅い内容がメインだろう、と当初は高を括っていました。しかしそのようなことは決してなく、いずれの先生のご発表も最新の知見を織り交ぜたもので

連絡先：小林正樹

〒278-8510 千葉県野田市山崎 2641

TEL：04-7124-1501 (代) 内線：6536

TEL/FAX：04-7121-3676 (直通)

E-mail：kobayashim@rs.tus.ac.jp

大変興味深く拝聴しました。一方で、一般の市民の方々がなるべく理解できるよう、各先生方が特に背景説明の際には非常にわかりやすく噛み砕いてご説明されているという印象を受けました。このような聴衆を意識したプレゼンテーションというものも今回改めて学ばせていただきました。

今年は COVID-19 いわゆる新型コロナウイルス感染

拡大の影響で、ほとんどの学会が対面を中止しオンラインでの開催に切り替えています。本フォーラムは会場入り口での消毒や検温の徹底等の十分な対策を講じた上で、対面開催を実現いたしました。このような状況下で第1回市民フォーラムを素晴らしい形で成功に導いた、世話人代表の丸山先生をはじめ関係の方々に、最後に改めて感謝の意を示したいと思います。